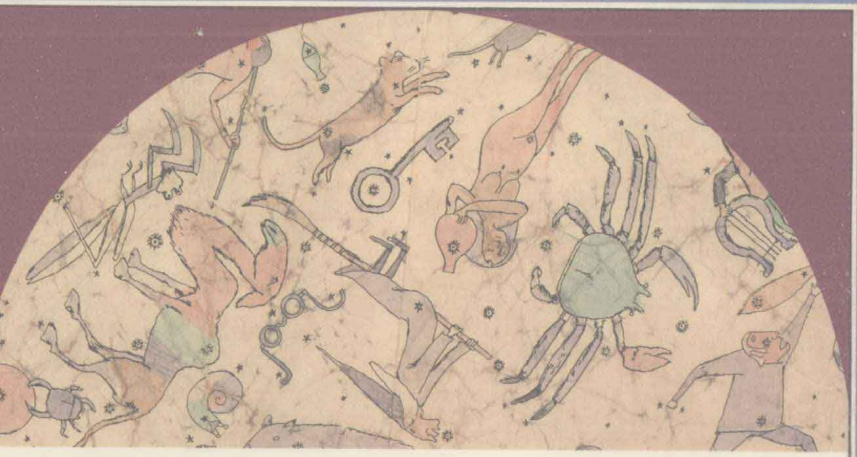

野尻抱影の本

1

星空のロマンス

野尻抱影の本

1

星空のロマンス

筑摩書房

野尻抱影の本——1
星空のロマンス

一九八九年一月二十五日　第一刷発行

著者　野尻抱影
編者　石田五郎

発行者　関根栄郷

印刷　三松堂印刷
製本　鈴木製本所
発行所　筑摩書房
東京神田小川町二ノ八
振替東京六—四一二三
電話東京三九四—六七二一（営業）
三九四—六七二二（編集）

乱丁・落丁本の場合は、御面倒ですが、小社読者係宛に御送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

© H. Horiuchi 1989　Printed in Japan. ISBN4-480-36011-5　C0395

星空のロマンス＊目次

I
星は周る……4
星に親しむには……12
II
春の星空……38
レオニズ……40
天上の三角関係……41
乙女と牛飼……42
北斗七星の伝説……43
北の子の星……54

「北の子の星」説話……58
沙漠の北極星……66
蟹座の星団……72
春の太陽と白羊宮……78
春の獅子座……86
暮春の海蛇座……94

III

夏の星空……104
竜座の姿……106
「闇の力」の星……107
万年の雪とヴェガ……108
水に映る星……109
銀河考証……115

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

「天鼓」と星……123
籠かたぎ星・すもとり星……130
夏の象徴——蠍座……136

IV

秋の星空……142
ペガススの正方形……144
アンドロメダ……145
ギリシャの素盞嗚尊（すさのおのみこと）……146
初秋の星のロマンス……147
「大火」流るる頃……158
獅子座流星群前記……174
秋のカシオペヤ座……181

V

冬の星空……188
昴（すばる）の思い出……190
白馬のオリオン……191
見たカノープス……192
すばる星の伝説……193
プレヤデス星団鑑賞……203
みつ星覚え書……213
オリオンをかくも見る……218
日本名によるオリオン……227
「ナイル河の星」シリウス……236
星座の横顔……245
ヒヤデス星団のこと……252
南極老人星見（あら）わる……261

久闊（きゅうかつ） カノープス……268
狼星と源五郎星……272
二月の黄道光……277

VI
南十字星を想う……282
ベツレヘムの星の正体……289
星の音楽……300
軍談の星……308
西郷星その他……314
下田の三ドル星……321

VII
日食の伝説……326
月夜の蟹……333

月夜の蟹後記……343
三日月物語……353
新惑星の邦名について……362
小望遠鏡漫語……364
天象儀の星……370
星書乱抽……374

VIII

古代ギリシャの楯と星……384
忘れられた天の川・星月夜……391
七月流火……393
七星剣の星文……400
妙見菩薩像と北斗七星……404
寒星……408

IX「星を語る」はしがき……412
「星」序……414
解説「抱影随筆」の理解のために……石田五郎……416

星空のロマンス

——野尻抱影の本1

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

装幀　安野光雅

I

星は周る

星は周る、年と共に周る。恐らく、星に親しんでいる僕等ほど季節の推移をはっきりと実感しうる者はあるまい。十月のある夜、プレヤデス星団が地平の濛気にぼかされながらペルセウス座のはずれに懸っているのを発見すると、「ああ、もう一年が廻った！」と呟く。ただしこの呟きは、年の暮れる、灰色の冬の来る淋しさを想うよりは、やがてオリオンが五月以来の雄麗な姿を現し、シリウスが虹色の光の矢を射る壮観を待つ喜びから洩らされる方が多い。

しかし僕は、三星やシリウスを、それを自然に望み得る初冬まで待ったことは無い。彼岸も過ぎて読書や原稿に思わず夜を更かした時、または夜半に目が覚めて庭に雨のような虫の声を聞く時など、僕の意識はすぐ星に輝いた空に向いている。「もう来ている時分だ」と思う。――オリオンがである。そして、そっと雨戸を開けて夜露に濡れた庭に下りる。しかしすぐには東の空を見ずに、まず南の星を見てそれからそろそろと頭を廻して行く。そして、「そら、いた！」と叫んで、ほんとに恍惚として、久し振りの彼等を見上げる。こんな時のオリオンほど美しく目覚しく見えることは無い。それに、誰にも知らせずにこっそりと出ていた物を見てやったような愉快さも胸を躍らせ

る。

ここで僕はオリオン座の思い出を語らしていただきたい。それには初めて彼等を知った中学生の時から始めなければならない。

その時僕は秋の修学旅行に引き込んだ風邪をこじらせて、横浜のある病院に寝ていた。十二月も近い晩で、戸外には木枯が古い建物の硝子戸をびりびり鳴らして吹いていた。二階にはどこにも人のけはいが無かった。僕は置いてきぼりになったような心細い気持で、床の上に起き直って、見るとも無くカーテンの隙の真黒な空に震えている星を見ていた。その中に縦に並んでいる三個の星が目に入って来た。

僕は枕もとにある学校のノートの間に、友人のKが描いてくれた星図を永いこと何の興味も感ぜずに挟んで置いたのを思い出した。ただそれに三星附近の星が描いてあることだけは覚えていたので、ふとそれを見比べてみる気になった。すると、三星を中心に、ベテルギウス、リゲル、ベラトリックス、それに星雲もすぐ発見された。ベテルギウス、小犬座のプロキオン、大犬座のシリウスが作る大きな三角形も太いペンで描いてあった。僕はその雄渾な三角形と、特にシリウスの爛々たる光にひどく驚かされた。Kが添え書きして置いた「天狼星」の物々しい名が、いかにもそれに相応しているように思われた。牡牛座のアルデバラーンとプレヤデスとは、ベラトリックスからまっすぐ線が引いてあったし、馭者座のカペラは例の五辺形の一角に示してあったが、これらを知ったのはその翌晩で、双子座のカストルとポルックスとはさらに後の晩であったように覚えている。

とにかくこうしてこの晩を皮切りとして僕はオリオンとその附近の星座を知った。目は永久に夜の空に惹きつけられるようになった。この喜びを植えつけてくれたKは陸軍中尉まで行ってある事

情から今は生死も知れていないが、しかし星と共に僕には忘れられない友人である。Kはどういう縁から星を知るようになったか聞いたことは無かった。恐らくその家が書肆であり、Kが熱心な読書家であり、文学少年であったために相違ない。

それから僕はKと共に熱心な少年天文家になった。Kが持っていた文部省蔵版の古い天文学の附図は何よりの力になった。幾度僕は夜の庭に立って、ちろめく蠟燭の光に、覚束ない星図の点々を夜更けの空に発見しようとしたろう。乏しい本の中には、博文館の「星学」があった。それから某氏の「大天文学」(?)の口絵で黄道光の妖しい三色版図を見た時の驚きを今も思い出すことが出来る。

黄道十二宮の意味ははっきり呑み込めなかったが、Kがその順序を覚える詩

The RAM, the BULL, the Heavenly TWINS.
And next the CRAB the LION shines;
The VIRGIN and the SCALES,
The SCORPION, ARCHER, and the GOAT,
The MAN THAT POURS THE WATER OUT,
And FISH with glittering tails.

を書いて送って呉れた絵葉書は、今もアルバムの中でインキが褪めている。

さらに純であった少年の空想は、小笠原島まで行くと南極光(アウロラ・アウストラリス)が見えるというKの話に誘われて、翌年の夏船の切符を買う処まで進んだが、月一回の航海で、休暇中には戻れないことが分って、初めて諦めてしまった。小笠原のどの島まで行ったらいいのか、季節がいつで、第一それが事

実であるのかどうか、訊かれても答えられない。実に他愛の無い話だった。しかしその頃空想に描いた、黒い熔岩の岬が抱いている青い海、その中に浮く大きな海亀、赤い魚、夜は天の一方に演ぜられる魔術の光画は、三十年後の今でも胸の底から呼び出すことが出来る。

こんな風で、僕は星の夢をも絶えず見た。ある夢では、雲まで達く二本の大木の根がたに、緑衣と紅衣の童子が立っていた。両人がするするとせり上ると見ると、いつか姿が消えて、大きな青い星と赤い星とが木の梢に輝いているのを見た。風邪で熱の高かった夜の夢では、東海から昇る大きな星を見るために広い野原を歩いていた。そして野の果の川を渡って、真黒な崖の上に蹲って、ヴェガに似た紫の星の昇るのを見るとともに――夢によくあるように――崖の上からふわふわと下へ落ちて行った。そして落ちながら見上げると、頭の真上にその星が爛々と輝いているのを見た。また海中の大岩に寝て、南極十字星を見た夢もあった。後に友人に聞いた処では、色彩の濃い夢は男に少いという話だが、少くも僕の夢の中では、今でも夕映の空が真紅に燃え、中天から東の空に星が銀色に光っている夢は珍しくない。夜の夢を見れば、必ず星が輝いている。こうして一頃は夢が楽しくてならなかったのは事実である。

僕が星に親しんだについては、Kとともに一級下にいた友人のAを忘れることは出来ない。Aは今大阪で病院長をしているが、恐らく今でも星を観ているに相違無い。彼はKと違って、ある天文学者から感化されたらしい。そして、生れつきの器用から、ボール紙で大きな望遠鏡を作った。手頃のちいさいのも作った。僕はこれを幾度も借りて来ては、乙女椿の咲いている板塀や器械体操の鉄棒に寄せかけて、首の痛くなるまで覗いていた。

中学を出て早稲田へ入ると、僕はギリシャ神話の研究から、それと星座との関係を調べて、さら

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com